

祖父母の畑と僕

三条中学校 一年 小田 康暉

夏休みに入ると、朝から暑く、日中は三十度をこえる日が続いています。朝からいつもどおり父、母は仕事、高校生の兄は部活動、中学生の兄は学習会、僕は部活動、祖父母は畑仕事に出かけます。

部活動が終わると祖父が、「康暉、腰が痛いから水やりをしてくれないか。」

と言いました。僕は、小さい頃から祖父母について畑によく行っています。だから畑に行くことは好きなので、「いいよ。」

と言いました。

畑に着くと、緑が広がっていました。でも土の部分も多く見えました。いつもの年は緑ばかりだけど祖父母が腰が痛くて種を植えられないから、緑が少なく見えたのだと思います。

それでも、にんじん、ピーマン、とうもろこし、カボチャ、トマト、きくの花、きゅうり、キャベツ、レタス、ササギ、ジャガイモ、ネギ、ニラとたくさん野菜を育てているようです。まず、畑にある井戸の水道からつ流れたホースを用意して祖父が手本を見せてくれました。手本を見た後、僕は、やってみるぞと心が燃えていました。僕が水やりするのはにんじんの種を植えたところです。まだ芽も出ていません。

「康暉、水たまりができるくらいでいいんだよ。あわてないでゆっくり同じ速さでかけていってね。」

と祖父は優しく声をかけてくれました。水をかけていると、

「康暉、見て。ここ、全然染み込んでないだろ。だからたっぷり水やって。」

と言われました。僕は言われたとおりにやってみました。

「よくなったね。」

とほめてくれました。水やりなんてすぐに終わるだろうと思っていたけれど、終わってみると二十メートルくらいのところに水をやるのに三十分以上かかっていました。適当にただ水やりするのではなく全体に十分な量を一定に水やりするのはとても大変だと思いました。

「康暉が水やりしてくれると助かるな。小さい頃から畑に来て、あれこれ手伝ってくれてありがとな。」

と言ってくれました。

「うん。」

心の中で、すごく嬉しく思いました。

次の日も、三十四度ととても暑い日でした。僕は、部活動の後、午後からはプールに行きま

した。プールが終わって帰ると、祖父は、待っていたかのように

「今日もよろしくね。」

と言いました。僕はすぐに

「いいよ。」

と返事をしました。畑に着いて、小屋で高校野球の決勝戦を見ながら祖父母と三人でアイスを食べました。

その後、昨日と同じ場所のにんじんの種を植えたところに水やりをしました。

また次の日も祖父母は、午後三時くらいから畑に行こうとしていました。僕は自分から「僕も行く。」

と声をかけました。こんなに暑い中、祖父母が水やりをするのは大変なんだろうと一瞬で思

いました。僕は手伝うのが三日連続になるので自分で決断して一緒に行きました。

それにしてもいつになつたら、にんじんの芽は出るのだろうかとか心配になり祖父母に聞いてみました。すると、

「種が植えてから二週間だから、あと一週間後くらいかな。」

と言いました。二週間毎日手入れをしてやっとな芽が出てくるんだなと感心しました。

「食べられるようになるのは、秋だからね。」と

祖母が教えてくれました。また、

「今食べてるのにんじんは、春に植えたにんじんなんだよ。」

と教えてくれました。

僕たちがカレーやきんぴらごぼうで食べてるのにんじんがいつでも食べられるように考えて種を植えているんだなと気付きました。僕は、

その次の日も水やりに行き、これから行ける日
だけでも手伝おうと思いました。

僕は手伝いを通して、祖父母が作ってる野菜
は、たくさん手をかけて作られていることを知
り、感謝の気持ちがあふれました。畑仕事をし
ている祖父母は大変そうに見えることもある
けれど、畑仕事が好きで生き生きとしているよ
うに見えます。僕は祖父母にいつまでも生き生
きとして毎日を過ごしてほしいと思っていま
す。